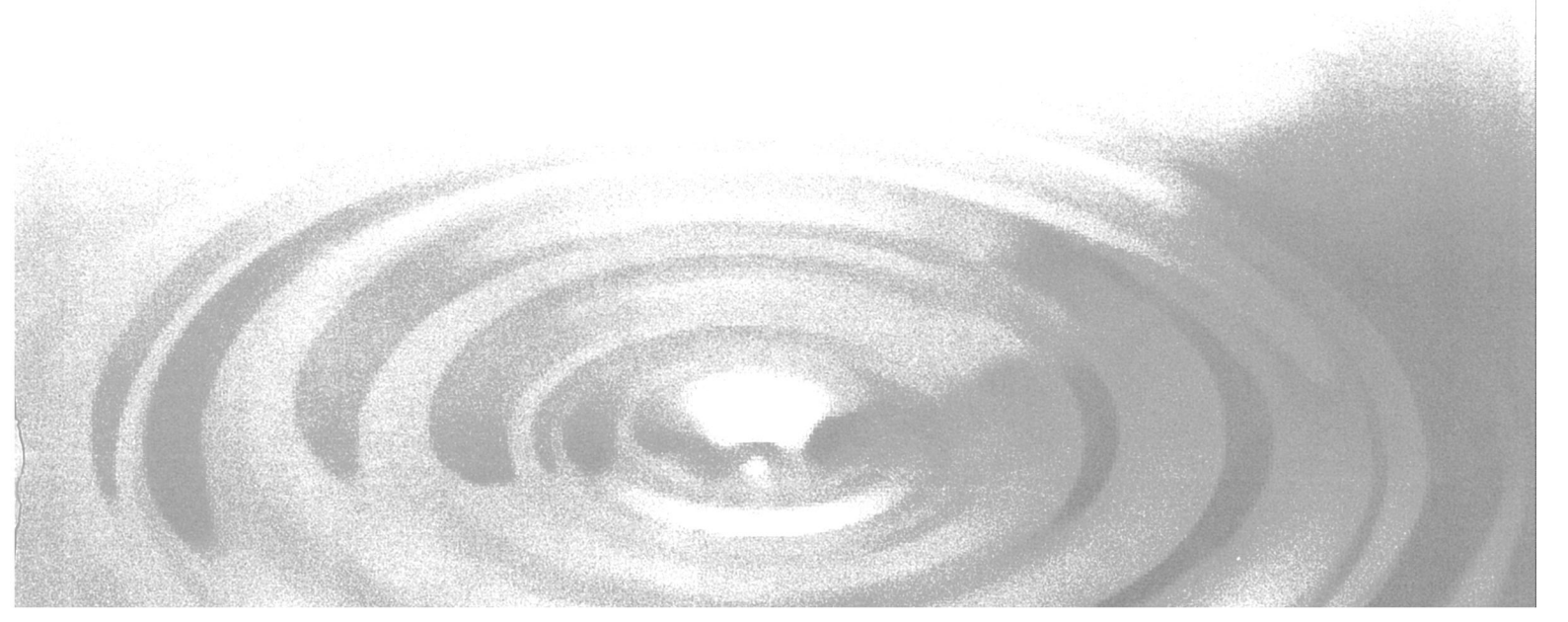


II 調查研究報告



地域住民の学習意識調査及び市町村社会教育担当者の本学への期待等の調査結果概要と本センターの講じた公開講座等の対応状況

本センターでは、第2期中期目標の計画を「公開講座・公開授業について検証を行いつつ、地域住民の学習ニーズの多様化、高度化に応じた学習機会を充実させる」と定め、その具現化に取り組んできた。そのため、中期計画前半の4年間に幅広い地域住民のニーズも把握するため、「市民の学習意識調査と市町村社会教育担当者の本学への期待等調査」を実施し、その調査データの分析を通して「地域住民の学習ニーズ」の把握を試みた。

具体的には、平成22年度から毎年、本学の公開講座受講生の学習意識調査を行うとともに、23年度に松江市主催の「まつえ市民大学」受講者の学習意識調査を、さらに24年度に県内市町村の社会教育、生涯学習推進の担当者に本学公開講座への期待等を調査し、これらの調査結果を複層的に分析し、「地域住民の学習ニーズ」の把握を試みた。

その結果は以下のとおりである。

1. 地域住民の学習意識調査及び市町村社会教育担当者の本学への期待等の調査結果概要

(1) 本学公開講座受講生の学習意識調査

平成22年度～25年度（4カ年継続）において、本学の公開講座・公開授業を受講している地域住民（受講生）の学習意識アンケート調査を実施し、地域住民の学習ニーズの把握に努めた。22年度はpre-surveyを行い、そのデータをもとに、23年度以降の調査項目を修正し、23年度～25年度にかけて島根大学公開講座受講者（23年度700人、24年度717人、25年度710人）を対象に学習意識調査を実施した。調査項目の「大学で学習する理由」（15項目）及び「大学で学びたい講座内容」（14項目）の質問の回答について、それぞれ上位項目を「地域住民の学習ニーズ」の参考データとして抽出した。平成23年度～25年度の上位回答の項目はほぼ同様であるので、参考に調査最終年の平成25年度調査結果の上位5項目（表-1、表-2）を示す。

「大学で学習する理由」では、7割以上が「興味ある内容の講座がある」を選択し、5割近くが「幅広い教養を身につけ」を選択している。さらに、「興味なる内容」や「幅広い教養」に結びつく具体的な「大学で学びたい講座内容」については、「教養」「地域の歴史や文化」「趣味」「社会・時事問題」「健康管理」が上位に挙げられている。（表-1、表-2参照）

表-1 大学で学習する理由（平成25年度）N=466 M.T.=307.9

	項目	度数	%
1	興味のある内容の講座があるため	347	72.8
2	幅広い教養を身につけるため	235	46.7
3	心のハリや生きがいを味わうため	177	31.4
4	退職後の余暇の充実のため	149	28.7
5	生活の時間に余裕ができたため	128	27.5

表-2 大学で学びたい講座内容（平成25年度）N=464 M.T.=365.5

	項 目	度数	%
1	教養（歴史・文学・語学・法律・心理・地理・考古学など）	330	71.1
2	地域の歴史や文化（伝統・伝承文化・生活文化・地場産業等）	217	46.8
3	趣味（音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など）	215	46.3
4	社会・時事問題（社会経済・国際関係・環境・エネルギー等）	160	34.5
5	健康管理（健康法・医学・最新治療法・栄養など）	139	30.0

(2) 松江市「まつえ市民大学」受講者の学習意識調査（平成23年度）

「まつえ市民大学」の受講生（456人、8コース中の一般教養4コースの205人）に対してアンケート調査を実施し、162人から回答を得た。

「まつえ市民大学で学習する理由」では、本学公開講座の調査結果と同様に「興味のある内容の講座がある」（64.8%）、「幅広い教養を身につける」（61.7%）、「心のハリや生きがいを味わう」（59.3%）が上位を占めているが、4番目には「いろいろな人と交流する」（49.4%）が上位を上がってきており、地域に立脚した市民大学ならではの市民同士のつながりを求める市民の学習理由が明らかになっている。（表-3参照）

次に、「関心のある講座内容」については、「教養」（67.1%）、「健康管理」（59.0%）、「生活の課題」（55.3%）、「社会・時事問題」（50.3%）、「社会貢献活動」（47.2%）が上位5項目に挙がっており、その内「教養」「健康管理」「社会・時事問題」の3項目が大学公開講座の場合と同じである。残り2項目は、市民大学らしく地域性の高い「生活の課題」「社会貢献活動」となっている。（表-4参照）

表-3 まつえ市民大学で学習する理由 N=162 M.T.=419.8

	項 目	度数	%
1	興味のある内容の講座があるため	105	64.8
2	幅広い教養を身につけるため	100	61.7
3	心のハリや生きがいを味わうため	96	59.3
4	いろいろな人と交流するため	80	49.4
5	退職後の余暇の充実のため	73	45.1

表-4 まつえ市民大学で学びたい講座内容 N=161 M.T.=408.7

	項 目	度数	%
1	教養（歴史・文学・語学・法律・心理・地理・考古学など）	108	67.1
2	健康管理（健康法・医学・最新治療法・栄養など）	95	59.0
3	生活の課題（消費者問題・年金・介護・保険・料理など）	89	55.3
4	社会・時事問題（社会経済・国際関係・環境・エネルギー等）	81	50.3
5	社会貢献活動（地域づくり・ボランティア活動・福祉活動など）	76	47.2

同じ地域の住民から構成される大学公開講座受講生、市民大学受講生の学習意識については、「学習の理由」「希望する学習の内容」の問いに対する回答から、両者ともほぼ共通であることが明らかになった。また、大学公開講座受講者は、「生活の課題」「社会貢献活動」等の地域の課題に係る講座内容より、受講者自身の自己啓発・自己実現に結びつく講座内容に関心が高いことが回答から伺える。これらの結果を踏まえ、「大学で学びたい講座内容」を「地域住民の学習ニーズ」と捉え、本学公開講座の検証する場合の基礎データとするとともに、講座内容の改善の参考資料することとした。

(3) 市町村社会教育・生涯学習担当者の本学公開講座への期待調査（平成24年度）

本学公開講座を松江市周辺だけでなく、県内各地の県民の学習ニーズに応えるため、県内19市町村社会教育担当者にアンケートを実施し、それぞれの地域の住民に学習機会を提供する場合には、どのような内容の講座や学習活動を期待するのか把握、検証した。

期待の高い項目は、「地域づくりやボランティア活動」（84.2%）と「青少年に係る教育問題」（84.2%）の2つで、8割を超える高い値であった。これらの項目内容は、「地域づくり」「地域の教育力」「青少年・家庭教育」「地域福祉」等の地域全体で取り組む今日的な地域課題となっている。

次には「教養（歴史・語学・考古学等）」（63.2%）と「社会の諸問題や国際関係等」（63.2%）、「個人の生活課題」（52.6%）が続いている。これらの項目は、個人の学習課題に該当するものであり、自己実現・自己啓発の学習活動となっている。

これらのことから、市町村社会教育・生涯学習担当者の大学公開講座等への期待としては、まずは「地域社会、地域住民全体に係わる課題」に係わる内容であり、次に、「一人ひとりの地域住民の学習ニーズ」に係わる内容が期待していることが明らかになった。また、市町村の担当者は、「教養を高める内容」と「社会・時事問題」等を地域住民の学習ニーズとして高く期待していることも明らかになった。

表-5 市町村社会教育担当者の大学公開講座等に期待する内容 N=19 M.T.=542.1

	項目	度数	%
1	地域づくり・ボランティア活動	16	84.2
2	青少年に係わる諸問題	16	84.2
3	教養（歴史・語学・考古学など）	12	68.2
4	社会・時事問題（社会の諸問題・国際関係等）	12	68.2
5	個人の生活課題（消費者問題・年金・介護など）	10	52.6

2. 第2期中期計画期間内における本センター講じた本学公開講座の改善、拡充について

本学の公開講座等に対する「地域住民の学習ニーズ」等を明らかにするために4年間に渡って調査を行ってきたが、その期間においても明らかになった受講者アンケート調査結果や公開講座の運営状況等を踏まえて、本センター運営会議学部代表委員を中心に本学公開講座・公開授業の検証を行い、地域社会の変化や要請、住民の「学習ニーズの多様化、高度化」に対応するために、本センターの所管する範囲において、公開講座の内容や公開講座の企画・運営の方法等の改善を講じてきた。

(1) 全学的テーマを掲げ、学部横断的な組織による公開講座の開講を図ることで、大学の教育研究機能を活かした多様な講座を提供する。

地域住民の学習ニーズの多様化、高度化に対応するため、大学として全学的テーマを掲げるとともに、学部横断的な組織による公開講座を企画、拡充し、講座内容の多様化を図った。

平成23年度は、年間43の講座が開講されたが、全学的テーマ「地域文化」に係る講座は前期2講座、後期1講座が開講され、その内学部横断的講座は1講座だけであった。

平成24年度は、前年度に引続き全学的テーマ「地域文化」を掲げ、そのテーマに係る公開講座を募集するとともに、学部横断的な公開講座の拡充を目指した。年間40の公開講座が開講されたが、全学的テーマに係る講座は前期に3講座、後期に3講座の計6講座が開講され、そのうち学部横断的な講座は2講座であった。

平成25年度は、全学的テーマ「環境」を掲げ、公開講座を全学募集した。年間46の講座が開講され、全学的テーマに係る講座は、前期に5講座が開講されたが、後期には開講されなかった。また、学部横断的な講座も開講されなかった。

以上、平成23年度から25年度にかけて、公開講座の全学的テーマへの取り組みを通して、学部横断的な講座の拡大を目指してきた。数量的には、23年度から24年度にかけて増加したが、その後、停滞した。その理由として、講座を開講される教員が固定化する傾向にあり、幅広い教員層に広がっていないこと、公開講座を担当する教員へのインセンティブについて、明確な方向性が見えないことによるものと考えられる。

(2) 地域社会の要請や社会人のニーズに応える新たな講座の開設

職業人や再就職希望の社会人、就職希望の学生などを対象とした資格取得支援（職業資格・専門資格）講座、職業能力向上（キャリアアップ）などに資する講座や履修コースの開設など社会の要請に応える新たな講座開設に取り組んできている。

[資格取得支援] ※公開講座等

平成25年度

- ① 情報処理技術者試験・国家資格『ITパスポート』試験支援講座
(参加者：社会人8人、学生3人 受講者11人)
- ② コンピュータサービス技能評価試験（表計算）2級資格取得支援講座
(参加者：社会人6人、学生2人 受講者8人)
- ③ デジタルアーカイブ・クリエイタ資格取得講習会
(参加者：行政・施設職員・社会人 受講者15人)

平成26年度

- ① コンピュータサービス技能評価試験（ワープロ）3級資格取得支援講座
(参加者：社会人5人、学生11人 受講者16人)
- ② コンピュータサービス技能評価試験（表計算）3級資格取得支援講座
(参加者：社会人13人、学生12人 受講者25人)
- ③ デジタルアーカイブ・クリエイタ資格取得講習会
(参加者：行政・施設職員・社会人 受講者8人)

(3) 公開講座受講者の意識調査、まつえ市民大学受講者の意識調査、及び市町村社会教育担当者の本学への期待調査等の調査データを集約し、総合的に分析を行った。その結果を踏まえ、市町村と連携・協働的關係を構築し、大学公開講座を活用した地域との協働事業を推進した。

- ① 平成25年度：松江市、出雲市との連携講座の開催、雲南市への出前講座の実施
- ② 平成26年度：松江市、出雲市との連携講座の開催

3. 調査結果に基づく本学公開講座の改善、拡充について

同じ地域の住民から構成される大学公開講座受講生、市民大学受講生の学習意識については、「学習の理由」「希望する学習の内容」の問いに対する回答から、両者ともほぼ共通であることが明らかになった。また、大学公開講座受講者は、「生活の課題」「社会貢献活動」等の地域の課題に係る講座内容より、受講者自身の自己啓発・自己実現に結びつく講座内容に関心が高いことが回答から伺える。これらの結果を踏まえ、「大学で学びたい講座内容」を「地域住民の学習ニーズ」と捉え、本学公開講座の検証する場合の基礎データとするとともに、講座内容の改善の参考資料とした。

